

## 北陸電気工事（1930）

担当 織田真由美

レーティング： **NEUTRAL** (2025/7/9) → **NEUTRAL**

- ※ 北陸電力の持分法適用会社
- ※ 建設投資の拡大や電力需要拡大で需要好調
- ※ 東京、大阪など大都市圏での受注獲得、M&A で事業基盤拡大目指す

	売上高 (百万円)	伸び率 (%)	営業利益 (百万円)	伸び率 (%)	経常利益 (百万円)	伸び率 (%)	純利益 (百万円)	伸び率 (%)	EPS (円)	1株配 (円)
連 22/3	45,928	+2.3	3,157	-18.1	3,327	-18.4	2,246	-29.3	80.25	30.00
連 23/3	44,846	-2.4	2,356	-25.4	2,531	-23.9	1,628	-27.5	58.17	36.00
連 24/3	53,398	+19.1	3,425	+45.3	3,645	+44.0	2,209	+35.7	78.92	40.00
連 25/3	55,607	+4.1	4,351	+27.0	4,611	+26.5	3,187	+44.3	113.89	44.00
連 26/3(会社予)	61,000	+9.7	4,000	-8.1	4,200	-8.9	2,900	-9.0	103.97	44.00
連 26/3(今村予)	58,400	+5.0	4,000	-8.1	4,200	-8.9	2,900	-9.0	103.97	45.00
第 2 四半期累計期間										
連 24/4-9	26,371	+27.8	1,256	+248.1	1,415	+201.9	977	+382.1	34.94	20.00
連 25/4-9	26,707	+1.3	1,262	+0.4	1,461	+3.2	940	-3.8	33.74	22.00
株価(2025/12/17)			1,400	円						
期末発行済み株式数(25/9 末)			29,963	千株						
期末自己株式数(25/9 末)			2,461	千株						
時価総額			41,799	百万円						
企業価値(EV)			25,613	百万円						
ROE(25/3 実績)			7.4	%						
予想配当利回り(26/3 今村予)			3.2	%						
予想PER(26/3 今村予)			13.5	倍						
BPS(25/3 実績)			1,568.20	円						
PBR			0.9	倍						
CFPS(25/3 実績)			271.6	円						
PCFR			5.2	倍						
EV/EBITDA(25/3 実績)			1.9	倍						



出所: 北陸電気工事、ブルームバーグ、今村証券

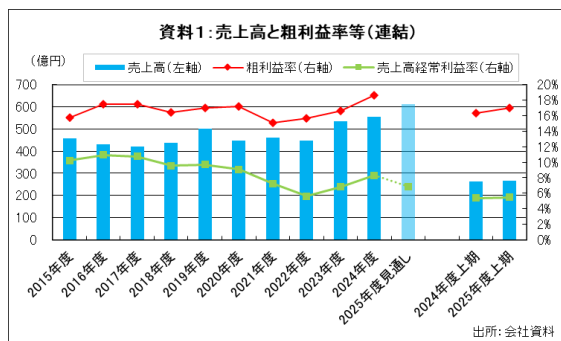
### ※ 会社概要…北陸電力グループの電気工事会社

北陸電力向けが売上の3割程度を占める。北陸地域での事業が大半だが、東京や大阪などの大都市圏での受注にも注力している。

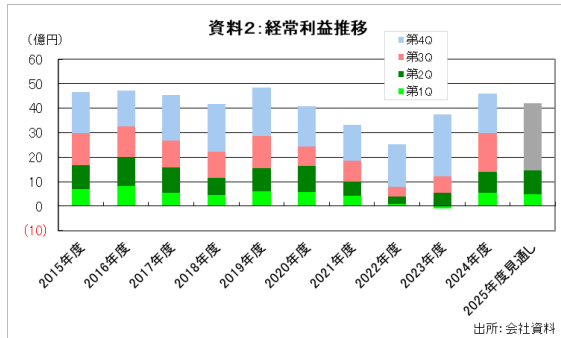
### ※ 業績…需要好調だが、工事遅延が影響

2026年3月期第2四半期連結決算は小幅な増収・経常増益。需要が堅調な中で売上高は前年同期に比べて3億円(1.3%)増収の267億円と、上期としては過去最高となった。

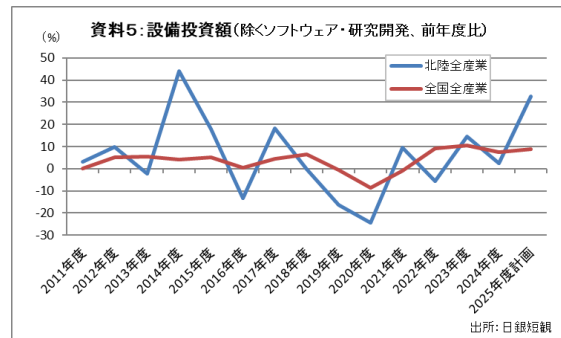
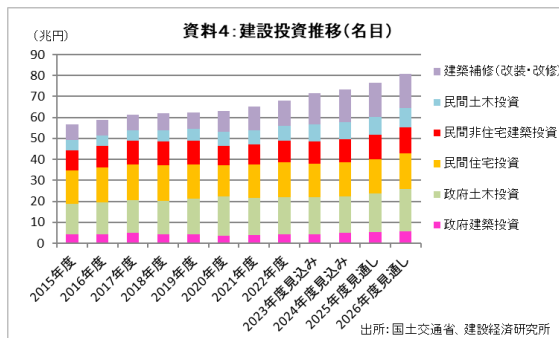
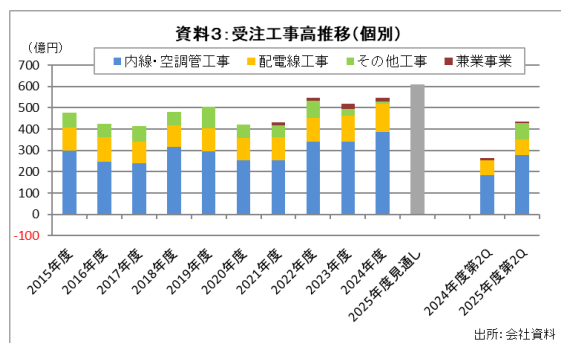
利益については賃金上昇に伴う人件費増加が重荷となったものの、増収効果や価格転嫁が進み粗利益率が17.0%と前年同期に比べて0.7ポイント改善、営業利益、経常利益は小幅ながら増益を維持した。他方、最終損益については前年同期に投資有価証券売却益を計上した反動から減益となった。



増収増益とはいえ、上期業績は期初の計画に比べると売上高で23億円弱、経常利益で4億円強下ぶれた。工事遅延などが影響している様子だ。会社は通期業績予想を据え置いているが下方修正リスクがありそうで、今村証券では売上高については会社予想を26億円程度下ぶれると予想する。利益については、同社の収益は下期に偏る傾向があることに加え（資料2参照）、上期に利益率の改善がみられたことで期初予想に達することは可能と考えることから7月時点の予想を据え置く。



他方、受注は好調だ。都市部再開発などによる建設投資の拡大や（資料4参照）、AI（人工知能）の普及によるデータセンター向けの電力需要拡大を背景に上期の受注高（個別）は前年同期比66.6%増の436億円と大幅に拡大した（資料3参照）。企業の設備投資意欲が旺盛な中で（資料5参照）、今後も受注環境は好調を維持しそうだ。来期業績については、建設投資の伸びと同等の増収率（5%程度）を想定し、売上高610億円、営業利益44億円、経常利益46億円、純利益32億円を予想する。



## ※ 投資判断

株価は10月末に過去最高値の1,650円を付けた後に、決算発表を受けて下落、足元では1,400円前後で推移している。来期の増益期待はあるものの、バリュエーションは妥当な水準と考え、投資判断はNEUTRALを継続する。

なお、会社は配当基準として「DOE 3.0%を目指す」としている。足元の1株あたり純資産(BPS)を基にすれば年間配当金は47円程度となり、年間配当金は漸増的に47円以上に増加しそうだ。今期の配当について会社は前期並みの44円としているが、前期まで実質14期連続で増配を続けていることを考えると、今期も1円程度の増配が期待できそうだ。

---

## 【当社の概要】

商号等：今村証券株式会社  
金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第3号  
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

---

## 【手数料】

国内株式等の売買取引には、約定金額に対して最大1.201750%（税込）（1.201750%に相当する金額が2,612円未満の場合は2,612円（税込））の委託手数料をご負担いただきます。

外国株式（外国ETF、外国預託証券を含む）の外国金融商品市場等における委託取引にあたっては、売買金額（約定金額に外国金融商品市場における手数料と税金等を購入の場合には加え、売却の場合は差し引いた額）に対し、最大0.990%（税込）の国内取次手数料をいただきます。外国金融商品市場での取引にかかる手数料、税金等は国（市場）により異なります。外国株式（外国ETF、外国預託証券を含む）の売買、配当金等の受取り等にあたり、円貨と外貨を交換する際は、外国為替市場の動向をふまえて今村証券が決定した為替レートを用います。

---

## 【リスクについて】

日本および外国の株式・債券への投資は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより、投資元本を割り込むリスクがあります。

---

## 【アナリストによる証明】

本資料に示された見解は、言及されている発行会社とその発行会社等の有価証券について、各アナリストの個人的見解を正確に反映しており、さらに、アナリストは本資料に特定の推奨または見解を掲載したことに対して、いかなる報酬も受け取っておらず、今後も受け取らないことを認めます。

---

## 【レーティングの定義】

OUTPERFORM：今後12ヶ月間のトータルリターンがTOPIXの予想リターンを10%超上回ると予想される。  
N E U T R A L：今後12ヶ月間のトータルリターンがTOPIXの予想リターンの+10%と-10%の間に入ると予想される。  
UNDERPERFORM：今後12ヶ月間のトータルリターンがTOPIXの予想リターンを10%超下回ると予想される。  
トータルリターン：株価変動率+配当利回り  
目標株価は12ヶ月間の投資を想定しており、将来発行されるレポートで修正されることもあります。

---

## 【免責・注意事項】

本資料は投資判断の参考となる情報提供を目的とし、信頼できると思われる各種データに基づき作成したものです。正確性・完全性を保証するものではありません。本資料に記載された意見・予測等は、作成時点における今村証券の判断に基づくもので、今後、予告なしに変更されることがあります。本資料は投資結果を保証するものではありませんので、本資料の内容について第三者のいかなる損害賠償の責任を負うものでもありませんし、本資料に依拠した結果として被った損害または損失について今村証券は一切責任を負いません。投資に関する最終決定はご自身の判断で行ってください。今村証券は本資料に関するご質問やご意見に対して、何ら対応する責任を負うものではありません。

今村証券及びその関連会社、役員が、本資料に記載されている証券もしくは金融商品について、自己売買または委託売買取引を行うことがあります。

本資料は今村証券の著作物であり、著作権法により保護されております。今村証券の事前の承認なく、また電子的・機械的な方法を問わず、本資料の全部もしくは一部引用または複製、転送等により使用することを禁じます。